

実りある省エネ実現へ

LED導入は計画的に

設置場所の雰囲気など考慮

一般家庭やオフィス、商業施設へのLED照明導入が進む中、照明計画や照明器具のデザインを手掛けるイリス(本社・札幌)の中屋恵美社長は、「無計画にLEDを取り入れるのではなく、どこにどんな明かりが必要か整理することが、実りのある省エネにつながる」とアドバイスする。

中屋社長は大手住宅設備メーカー勤務時に、建築物のコンセプトやその空間の使い道に合わせて照明の種類・光色・照度を検討する「照明計画」を担当。ホテル、飲食店の照明デザインに携わっ

てきた。

施主や建築士が抱く建物への思いを、より近くで感じながら照明をつくりたい。経験を重ねる中で芽生えてきた、そんな願いは次第に大きくなり、1999年にイリスを設立した。

当初は照明計画のみで

事業を始めたが、ある商業施設でのオリジナル照明の要望がきっかけとなり、現在では照明器具のデザインも手掛けている。

「LEDが普及し始めてから、照明の設計は大きな変化を迎えた。LED

「全部の照明をLED

化すると単純に考えるのではなく、必要のない場所には照明を入れないという判断も必要。ホテルの照明は客が心地よくなる配置となっているか、施設本来の役割に適合しているかという点に注意すべき」と力を込める。

中屋社長は、2014年1月15日に東京ビッグサイトで開かれる「第6回次世代照明技術展」で基調講演を担当するなど、照明に関する情報発信にも積極的だ。

「照明、光は曖昧さが強く、だからこそ奥が深い。まだまだ、『照明とはこうだ』なんて語れない」。この言葉からは、日進月歩で進化する照明アイテムとともに自身技術を磨いていく、という決意が伝わってくる。



「曖昧だからこそ、奥が深い」と照明の魅力を語る中屋社長

イリス社長 中屋 恵美さん